



また、〇〇したくなるような 専門家集団の魅力向上と 情報発信力の強化

監事 木戸出正継

本会への興味は、大学専門課程に進学したときから始まった。情報技術の研究開発は欧米からスタートし、我が国では技術の萌芽期に入った頃である。先端技術の基本と最新動向についての知識を会誌から知りたく、学生員になった。また第一線での研究者・技術者の声を生で聞きたく、大会・研究会・国際会議に参加した。大学での研究成果、そして入社した企業研究所での成果発表をしたく、研究会参加や論文投稿を行った。研究者・技術者の存在感が出てくると、学界・業界での関係者ネットワークを広げ、夢を語り、新たな活動を起こしたく、幹事・委員・役員を買って出た。次世代の研究者・技術者も育てたく、楽しく研究・教育活動を見せるようにしてきた。私の本会への興味は先端技術の情報交流の場にあり、そこで行動することに魅力を感じてきた。学会から発信される情報を自然に吸収し、活動参加することにより、更なる魅力を発見していくポジティブフィードバックがかかり、学会活動に深入りしてきたのであろう。今、このサイクルを見える形で強く速く回す必要がある。会員に対する魅力を明確にし、その情報を積極的に発信すると、会員はその周りに集まってくる。多くの人が集まれば、多様な魅力が生まれ、会員増加につながる期待が出る。そのためにも原点に戻り本会の魅力を見つめ直し、目に見える形で発信したいものである。

いろいろな人が本会には関係する。学会本来の姿は、男女差別なく、年の差も関係なく、言語の違いも克服し、距離・空間を越え、深い専門的知識を結び付ける、多様な背景を持つ専門家集団である。来るべき新しい社会への技術変革は、この多様な専門家により深く広く検討され、その結果を社会に示し、学界・業界そして社会全体で進めていくものである。本会のいろいろな活動の中で、多視点な意見交流が活発に行われ、個々の専門知識が集団の中でより大きくより深くよりレベル高く、増幅していくことが期待される。特に、次世代を担う若い人たちに興味を抱かせ、技術者・研究者の卵を育て専門家への道を示すことが大切である。ワクワクする気持ちになる夢、その夢を実現していく技術、そして社会からのフィードバックなどの情報交流を強め、具体的な育成の場としての学会活動の在り方を準備したいものである。建設的な議論展開の仕組みにすれば、彫刻型でそり落としながらのアイデア形成でなく、粘土型で継ぎ足しながらの知識増幅を進める専門家集団になっていく。個の知恵の発掘と集団としての知恵の増幅の仕組みを目に見える形で構築していけば、仲間と知識を高め合う学会組織となろう。新しい技術変革に対応し、積極的に情報発信をする知的専門家集団にしていきましょう。また、その運営も楽しく効率良くできる組織集団にしましょう。

本会を取り巻く社会環境はダイナミックに動いている。経済的な沈滞からの立て直し、東日本大震災による社会インフラの破壊から再建、地球温暖化とローカルな異常気象の大量発生、高齢化に向かう労働者の変化と若者の理工離れ、等々、インパクトの差はあるが多様な変化が社会そして技術に影響を及ぼしている。その中、本会の組織運営形態が社会的に見直され、一般社団法人としての再スタートになった。

変化のタイミングを上手に捉え、社会における存在感を高めたい。大組織として動いてきた本会も従来の活動の洗練化・継続強化ではなく、原点に戻って多様な社会環境の変化に対応できる、フットワークのあるスピーディーな魅力ある組織運営を心掛けたいものである。そのために組織運営にゆとり・遊び・リフレッシュの気持ちが欲しい。過去の成功に捉われず、変化の本質を見極め、新たな動きを目に見える形で提案・実行できる環境にしたい。いろいろな場面で本会をアピールし、本会の基本姿勢を常時見せていき、情報発信を熱意を持って継続していきたい。高度情報社会を先導する専門知識を蓄積し、外部に発信し、いつでも・どこでも・誰にも、“また〇〇したくなるような組織の魅力”が見える知的集団の見本が、電子情報通信学会であってほしい。私は監事としてもこのような刺激を本会に与えていきたい。